

黒田 清子

今上陛下第一皇女。
ご結婚に伴い皇籍
を離脱。現在は、
伊勢の神宮の祭主
をお務めになる。

【旧名】
紀宮清子内親王

【ご誕生】
昭和四十四年
四月十八日

【お印】
未草(ひつじくさ)

今月の祭日

元始祭(三日) 天皇陛下御親から皇位の始まりを祝う祭り。全国の神社に於いても宮中に倣い、皇室の繁栄と国家安泰を祈ります。
昭和天皇祭(七日) 皇霊殿と武蔵野陵で行われ、昭和天皇の御霊をおまつりします。

神道知識への誘ひ「神宮と祭主」

日本には約八万の神社が鎮座して
いますが、伊勢の神宮は特別な御
存在として、歴代天皇より格別な
崇敬が寄せられました。
御鎮座以来、宮中御同様に、皇室
の弥栄と国家国民の安寧、五穀豊
穡が祈念され、古くは内親王(ない
しんのう)・女王(じょおう)のうち
から選ばれた「斎王(さいおう)」が
神宮にお仕えになりました。
現在は、今上陛下第一皇女であら
れる黒田清子さまが、神宮の祭主
(さいしゅ)として御奉仕されてい
ます。

元旦の宮中祭祀「四方拝」

天皇陛下の一年は、宮中祭祀で
始まります。
まだあたりは暗く、しんしんと
冷える元旦の朝五時半、陛下は
まず「四方拝」に臨まれます。
四方拝は、神嘉殿(しんかでん)
の前庭に畳を敷き、周りを屏風
で囲って行われます。
庭燎(ていりょう)と松明(たい
まつ)だけの明かりのなかで、
陛下は畳に正座され、伊勢の神宮、
山陵、四方の神々に遙拝(ようはい)
なさいます。

なさいます。
表面の御歌は、この折のご様子
を御詠みになられたものです。
また、平成十五年のお誕生日の
折にも「お祭りや行事は、もし
それが、義務だとのみ受け取っ
ていたならば、難しさを感じて
いたこともあったかもしれませ
んが、皇后様がそれぞれに意義
を見出され、喜びを持ってなさ
るご様子を拝見して育ったこと
は、私を自然にそれらのお務め
に親しませたように思われ、恵
まれた事だったと感じています。」
とお述べになつています。

しづかなる みまつりの朝に
母と立つ 凍てる大地に
初日さしたり

くろださやこ
黒田清子 神宮祭主

神社は心のふるさと
未来に受け継ごう「美しい国ぶり」

